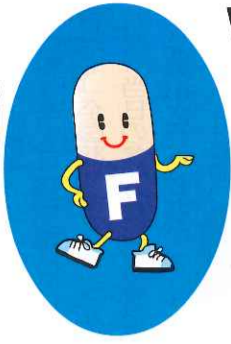


POWER!



2021年
7月
vol. 75

令和3年(2021年)
7月20日発行

発行所●日本薬剤師連盟
〒160-0004
東京都新宿区四谷4-3
四谷トーセイビル2階
TEL (03) 3225-3100
FAX (03) 3225-3200

発行月●隔月発行

<http://www.yakuren.jp>

かみや 神谷まさゆき副会長 活動報告(8)



コロナ禍での支部訪問活動!

6月20日まで東京都、京都府、大阪府、兵庫県、愛知県、福岡県、北海道、岡山県、広島県、沖縄県に発令されていた緊急事態宣言は、沖縄を除き解除され、岡山県と広島県を除いて7月11日までを期限としてまん延防止等重点措置に移行した。また、埼玉県、千葉県、神奈川県、岐阜県、三重県に適用されていたまん延防止等重点措置は埼玉県、千葉県、神奈川県は7月11日まで延長され、岐阜県と三重県は解除された。

このような状況の中で、神谷副会長は事前にPCR検査により陰性であることを確認しながら支部訪問活動を展開している。4月中旬以降6月中旬までの間、滋賀県、奈良県、和歌山県、宮城県、支訪問活動は実施することができたが、予定されていた大阪府は初日のみの訪問、また、秋田県、福島県の訪問活動は延期されることになり、その期間を活用して地元愛知県において支部訪問を行った。



滋賀県(4月13日~16日)



奈良県(4月20日~23日)



和歌山県(4月26日~30日)



愛知県(5月18日、20日、21日)



愛知県(5月25日、26日、28日)



愛知県(6月1日~3日)



宮城県(6月8日~11日)

●滋賀県(4月13日~16日)

大津市を皮切りに、9支部を訪問し、薬局116か所、卸事業所3か所、製薬企業2か所を地元の役員とともに訪問し、挨拶することができた。また、滋賀県議会、大津市議会も訪問した。

●奈良県(4月20日~23日)

奈良市など14支部を訪問し、薬局163か所、卸事業所10か所、製薬企業3か所、病院1か所を訪問し、挨拶することができた。

●和歌山県(4月26日~30日)

和歌山市など11支部を訪問し、薬局50か所、卸事業所15か所、製薬企業1か所のほか、国会議員事務所、高野町の平野町長など10か所を訪問することができた。また、支部の会員との意見交換会を3回、更に、29日(昭和の日)には若手の会と女性の会に参加するとともに、生涯研修会ではwebで挨拶する機会をいただいた。

は次のとおりであった。

●大阪府(5月10日)
大阪府医薬品卸協同組合、大阪生薬協会、日本調剤師連合会など7か所を訪問し、挨拶することができた。

●愛知県(5月18日、20日、21日、25日、26日、28日)
大阪府の支部訪問が2日目で以降延期になったこと、また、5月末の秋田県の支部訪問も延期になったことから、愛知県で訪問していない支部を訪問することになった。5月中の訪問は一宮支部など6支部を訪問し、薬局143か所、病院1か所を訪問した。また、20日には会員とのweb座談会を2回行い、50人の会員と交流ができた。

●愛知県(6月1日~3日)
福島県の支部訪問が延期となったことから、愛知県尾張地域の薬局等への訪問活動を行った。薬局79か所、国会議員事務所1か所を訪問した。

●宮城県(6月8日~11日)
石巻地区、気仙沼地区、大崎地区から南下し、仙台地区を経て仙南地区、白石地区を訪問した。薬局30か所、卸事業所8か所などを訪問するとともに、石巻市ではミニフォーラムに、仙台市では新型コロナウイルスワクチン接種に関する研修会に参加した。また東日本大地震被災地の視察も行うことができた。

支部訪問と並行して都道府県の会合へも参加!

神谷副会長は、支部訪問活動とともに、可能な限り都道府県の会合にも参加している。4月中旬から6月中旬までに参加した会合

神奈川県薬剤師連盟支部長・地域連盟会長会：リアル、鹿児島県薬剤師連盟主催の神谷まさゆき後援会活動に係る説明会：ウエブ、大阪府(薬剤師連盟評議員会：リアル、薬剤師会薬局ビジョン検討委員会：ウエブ、薬剤師連盟中河内ブロック「神谷まさゆき先生と語らいの会」及び評議員会：ウエブ)、新潟県(薬剤師会改正薬機法に関する研修会、令和3年度定時総会：ウエブ)、石川県(薬剤師会第2回開局・協組在沢役員会ならびに常務理事会合同会議：ウエブ)、岡山県(薬剤師連盟主催の女子カフェ：ウエブ)、群馬県(薬学大会開会式：録画での挨拶)、秋田県(薬剤師連盟全県支部役員・班長拡大会議、青年部・神谷副会長オンライン会談)、支部長・神谷副会長オンライン会談、薬剤師代表役員会・議事運営委員会：ウエブ)、広島県(薬剤師会による薬業連携に関する研修会：ウエブ)、埼玉県(薬剤師連盟総会：リアル)、福井県(薬剤師連盟総会：ウエブ)、山形県(薬剤師連盟総会：ウエブ)、東京都(薬剤師連盟定時総会：リアル)、佐賀県(薬剤師会令和3年度定時総会：ウエブ)

その他、都道府県の支部薬剤師連盟の会合や女薬連盟の会合にも参加した。

また、6月13日(日)には日本女性薬剤師連盟の総会にweb参加し、挨拶することができた。

毎日の活動をFacebookページに掲載!

神谷副会長は、毎日の活動状況を写真とともにFacebookページ「神谷まさゆきの活動日誌」に掲載しているのので、是非閲覧願います。



風力計



日本薬剤師連盟
北陸信越ブロック総務 角野 雅之

災い転じて福となす

いつの間にか創業80周年を迎えることになり、いつの間にか還暦を迎える年になった。そしていつの間にか孫と遊んでいる自分がいた。年月を重ねることは嬉しいような寂しいような……。

年を重ねると時間の経過が早く感じるというけれど、それは事実である。60才の者にとっての1日は今まで生きてきた21900日分の1であり、365日しか生きていない1歳児に比べれば相対的に短く感じるのは当然である。これからはますますスピードを上げていく人生をいかに充実したものにするかが今の課題である。

この年になって思うことは、どうして若いときは政治や選挙に興味になかったのだろうか?という事だ。大学を出るまで選挙なんか行ったこともなかった。恥ずかしながらこの年になって世の中の流れがおぼろげながら理解できて、我々の使命が未来の薬剤師のために職能と社会的地位を向上させることだとわかってきて、初めてその重要性に気付いた次第である。たしかに若かった時は、自分のことに精いっぱい薬剤師としての職能や、まして未来のことなど考えることができなかった自分を思い出す。そう思うとこのコロナ禍は、政治と薬剤師職能のかかわりがあるという見えて、医療人として社会貢献の重要性を実体験できる良い機会なのだろう。「災い転じて福となす」とはまさにこのことである。

令和3年度 第1回全国薬剤師フォーラム

チューターによるSGD(スマールグループディスカッション)の感想

令和3年4月18日(日)、コロンビアにおいて「全国薬剤師フォーラム」が開催された。当日の参加者は都道府県薬剤師連盟より選出された47名がZOOMで集結し「コロナに打ち勝つ名簿収集」のテーマの下、地域別にA～Fのグループに分かれて「神谷まさゆき副会長の支援について」スマールグループディスカッション(以下SGD)が行われた。

かだったが、結果的には時間が少し短いかな？と感じるくらいお互いの意見交換ができた。名簿集めの手段以外に、知名度を上げる策についても提案された。まず北海道、東北ブロックで共通のニックネームを作り、知名度アップに結びつけたいという結論が出た。これ以外に知名度アップにつなげる方法がいくつか出されたので、これを実際に試し名簿集めに絡めていこうということとここで今回のフォーラムを終了した。

関心のない方に、いかにして名簿に名前を書いてもうか、また名前を書く意味を分かってもうか、という話題から、「他県で作成された資料などをすぐに共有できる仕組みが欲しい！」という結論になりました。120分という長時間でしたが、皆が適切れることなく積極的に発言し、盛況なディスカッションとなりました。

Cグループ 北陸信越・東海ブロック
企画実行委員会 金井委員

Cグループは東海、北陸信越のグループでした。初めての方もいらっしゃいましたが、昨年のフォーラム参加者と同メンバーの方も多く、非常に活発な意見交換を行うことができました。特に愛知県の活動が活発であり、紹介者名簿もフォーラム段階で多く集まっていました。愛知県の成功事例、失敗事例を参考に各県の現場に落とし込む形で話が展開していきました。

Dグループ 大阪・近畿ブロック
企画実行委員会 伊藤委員・大業委員

大阪・近畿ブロックは代理出席の県もあり、少しなじむのに時間がかかったが、後半は問題なくコミュニケーションが取れている。内容について、古典的なやり方であるが電話等で名簿がまだの方に依頼をかける。WEB研修会等で事前演説の時間をとるなどの方法をとる。結果的に、足を使うしかないという結論であった。和歌山県は担当役員から委員会委員に対して協力をお願い、各支部長は支部内の未提出者に対して声掛け、県薬連盟は複数回の名簿の依頼を行っている。他府県で回収率が思わしくない県には実践してもらいたい。和歌山も元々は回収率がよくない県であったがある



Aグループ 北海道・東北ブロック
企画実行委員会 田城委員・吉田委員

Bグループ 関東・東京ブロック
企画実行委員会 福嶋委員・榎方委員

全国会長・幹事長拡大会議開催

令和3年5月13日(木)、A.P日本橋において令和3年度第1回全国会長・幹事長拡大会議が開催された。原口常任総務の司会で開会され、冒頭の挨拶では、座長の山本会長より最近の日本薬剤師連盟活動について、新型コロナウイルスワクチン接種に係る対応から経済財政運営と改革の基本方針(骨太の方針)及び税制改正要望等に関して引き続き薬剤師連盟として政策提言も含めた活動を進めていくこと、加えて組織内統一候補に選任された神谷まさゆき副会長の全国に知らしめ、藤井基之彦議院議員の跡をしっかり受け継ぐ体制を構築すること、2名体制を堅持することについて強い決意が表明された。

議事に入り、石井副会長から会務日誌を基に昨年度下期に実施された主要会議及び各ブロックで実施された会議、研修、フォーラム等への対応状況、都道府県薬剤師連盟主催「若手薬剤師指導者育成フォーラム」開催要項の説明、直近の政治課題(経済財政諮問会議、財政制度等審議会、規制改革推進会議における医療・介護WG等の現状等)について、財務省、厚生労働省等の資料を提示しながら報告がなされた。

続いて神谷まさゆき中央後援会活動に関する協議に入り、組織体制、後援会全体スケジュール、支部訪問日程等について執行部より説明があった。大澤副会長からは名簿収集日程並びにお礼がきき送付日程、都道府県別の名簿達成状況が説明された。更に出席した全ての都道府県代表から各支部ごとに名簿収集進捗状況、支部訪問予定及びその結果、並びに今後の活動予定が報告された。都道府県ごとに特色ある取り組みが紹介され、新型コロナウイルス感染防止下における活動時の対策に加え、webを用いた新たな活動方法、名簿収集目標達成への熱い意気込みが示された。



ため役割分担、進行はスムーズに行えた。進行は概ね司会者に任せながら最初に検討してほしい課題「①正しい収集方法を理解しているか ②各県の取り組みの発表 ③名簿収集の一連の流れで問題・障害になっていない点がないか、あれば全員で解決策を考える。」について告げていたためそれに沿った内容で議論が進んだ。

Eグループ 中国・四国ブロック
企画実行委員会 高島委員

変わらず、緊張なく始まった。九州は先の選挙において名簿を多数集めたブロックである。名簿集めは「質」よりも「量」と位置づけ討議が進んだのはこのグループならではの点だろうか。また、薬局と病薬メンバーで構成されており、病薬メンバーから病院へどのようにアプローチすればいいか指南をうけ、即や大学など多方面へ切り込んでいく足がかりを得られた。課題や取り組みを共有し、対策を講じるための数多くのアイデアを提案できたSGDとなった。

Fグループ 九州ブロック
企画実行委員会 田城委員・吉田委員

本薬業政治連盟との連携について報告があり、浜田副幹事長の閉会挨拶で本会議は終了となった。

本会議では、議事に先立って座長より神谷まさゆき副会長へ挨拶の機会が設けられた。神谷副会長は、一年前に組織内候補として選出された際の思いと、直後より全国支部訪問を通じて活動する中で、様々な地域における医療の特性と課題、さらに薬業界や薬剤師への強い思いに直接触れることができたことが最大の喜びであったことを出席者に話された。そしてその強い思いこそが、自身にとって大きな成長の糧となり、政治信条の裏付けとなったことを語った。最後に「現場で汗を流しているすべての薬剤師の皆様から伝えていただいた熱いご支援に対し、必ずその期待に応えたい。」と力強い覚悟を表明され、会場は暖かい激励の拍手に包まれた。

神谷まさゆき副会長、全国支部訪問を語る



本会議では、議事に先立って座長より神谷まさゆき副会長へ挨拶の機会が設けられた。神谷副会長は、一年前に組織内候補として選出された際の思いと、直後より全国支部訪問を通じて活動する中で、様々な地域における医療の特性と課題、さらに薬業界や薬剤師への強い思いに直接触れることができたことが最大の喜びであったことを出席者に話された。そしてその強い思いこそが、自身にとって大きな成長の糧となり、政治信条の裏付けとなったことを語った。最後に「現場で汗を流しているすべての薬剤師の皆様から伝えていただいた熱いご支援に対し、必ずその期待に応えたい。」と力強い覚悟を表明され、会場は暖かい激励の拍手に包まれた。

JPLフォーラム2021開催

令和3年6月20日(日)、本来、令和2年度事業として2月の予定だったJPLフォーラムがコロナ禍のため延期となり、AP日本橋のスタジオには挨拶や対談の参加者の方々のみとして、完全ウェブ開催となった。来賓4名、役員27名、全国のブロックから47名の女性薬剤師の皆様が参加した。

開会挨拶

司会は田城企画実行委員。冒頭、山本会長の挨拶では、初めての女性薬剤師フォーラム(京都)に出席したときの感想等を交え、現場で働く女性薬剤師の力強さを話され、本田顕子参議院議員に続けて神谷まさゆき氏の名前を広めていきたいとの挨拶があった。



来賓挨拶

次に、来賓として近藤由利子日本女性薬剤師連盟会長から、健康で愉快で真面目な人柄の神谷まさゆきさんを支援しますという、力強い挨拶があった。



国会報告

続けて藤井基之参議院議員の国会報告があった。国政において薬剤師の職能を発揮し、新しい時代の薬剤師像を神谷まさゆき君に期待し、自分の後任として、本田顕子議員との二人体制を維持できるように支援をお願いすると述べられた。



はじめまして神谷まさゆきです

次に、神谷まさゆき日本薬剤師連盟副会長から「はじめまして神谷まさゆきです」というテーマで講演が行われた。生まれ育った実家が職任一体の薬局だったこと、父親の背中を見て薬局の現場を知っていたこと、製薬会社で



対談

次に、モデレーターにプロの司会者栗原由佳氏を迎え、「本田顕子参議院議員×神谷まさゆき副会長」の対談が45分ほど行われた。握手ができない中でも想いを共有して行く大切さが話し合わせ、参加者からの質問にも率直に答えるなど、素顔の神谷候補の姿が伺われ、楽しい雰囲気の中での対談となった。



フリートーク(女子会の時間)

休憩を挟んで6グループに分かれ

「フリートーク(女子会の時間)」として「神谷まさゆき支援の輪を広げるには!」をテーマに、グループディスカッションが活発に行われた。各グループのフリートークのあと、「実現可能活動」として次回フォーラムに向けての宣言として、今後どのようにして神谷まさゆきの名前を広めるか、人柄を知ってもらおうか、具体的方法などについて発表がなされた。

- Aグループ(北海道・東北) サミンググリーンとして緑のマスクを活用し、認知度アップにつなげよう!
- 親しみやすいネーミングとして、スマイル王子を宣伝する。
- 女子会、会議などで動画を流す。地元の会議や研修会に神谷まさゆき氏にリモートで参加していただく。
- 各自が人脈を使い、SNSなどで友人や、薬剤師仲間情報発信する。
- Bグループ(関東・東京) 来年2022年2月11日開催のJPLフォーラムまでに各県で最低1回ウェブ飲み会を開いて、ありのままに話す神谷まさゆき氏を知ってもらい、女性の気持ちをつかもう!
- Cグループ(北陸信越・東海) 支部回りは役員以外の若い薬剤師の薬局を訪問先に提案、興味を持ってもらう。
- 店頭にもサミンググリーンを置き皆さんにアピール。知ってもらおうきっかけに。
- 店舗、会合の場にSNSなどのQRコードを設置、登録してもらう。

- Dグループ(大阪・近畿) 薬局内でのポスターの掲示、キャラバンの写真をスタッフの身近な休憩室に貼る。
- POWER配布、定期配布物などを訪問配布、具体的な話をする。
- ZOOMのバーチャル背景をサミンググリーンに。研修会などで動画を流す。

- Eグループ(中国・四国) 女子会を継続する。リアルでなくてもウェブで開催する。少人数で回数を増やして開催。子どもと一緒に参加OK、スケジュールが合えば神谷先生に参加してもらう。
- Fグループ(九州) 女子会の開催。女性の興味を引く



●Aグループ



●Dグループ



●Bグループ



●Eグループ



●Cグループ



●Fグループ

●総評 岩本幹事長から、今日お集まりの皆様が地元でキーウーマンとなり盛り上げてほしいとの総評があり、その後、原和子先生の熱い「エール」に続き、橋本常任総務の心のこもった開会挨拶で終了となった。



ような集まりを開き人の輪を広げる。サミンググリーンとしてカエルのグッズを作成し、名簿収集や集會時に活用する。



藤井もとゆき 国会レポート

薬剤師・薬学博士
情報監視審査会会長・参議院議員 藤井基之



後発医薬品の信頼回復

後発医薬品については、薬剤師による使用促進の努力等もあって2020年9月までに数量シェア80%とする政策目標を概ね達成するに至りました。しかしながら、昨年12月、そして本年2月と後発医薬品メーカーによる法令違反が明らかとなり、更には製品の自主回収や出荷調整等が続き、医療を受ける国民や医療関係者の信頼を大きく損なう事態となっています。

こうした状況を踏まえ、自民党議員連盟の「ジェネリック医薬品の将来を考える会」は、ジェネリック医薬品を扱う全ての企業が「ガバナンス・コンプライアンス・リスクマネジメント」を徹底し、「揺るぎない安定供給体制」「高度な製造管理・品質管理体制」「品質・有効性・安全性等の各種情報の提供」を遵守することを前提として提言を行い、財務大臣及び厚生労働大臣に提出しました。

この問題に関して6月8日の厚生労働委員会の質疑でも取上げ、法令違反の一義的責任は当該企業にあるものの、一連の不祥事に対して如何に対応し、後発医薬品に対する信頼回復に向けて如何なる政策を行っていくか、厚生労働省として早急に取り組むべき重要課題であることを指摘しました。

また、いわゆる「骨太の方針2021」においても、後発医薬品の品質及び安定供給の信頼性を確保しつつ、2023年度末まで後発医薬品の数量シェアを全ての都道府県で80%とする新目標の検証を行っていくと記されています。

国民が安心して医療を受けられるよう、行政、企業が一丸となって信頼回復に努めていくことが何よりも求められています。



オレンジ日記

自民党 厚生労働部会副部長
参議院議員・薬剤師 本田顕子



積み重ね

通常国会が閉じてからも閉会中審査、災害対応、年末の来年度政府予算案の編成に向けた各省の概算要求に関する勉強会、各級地方選挙対応等の日々が続いています。

また、新型コロナウイルス感染症の決め手となるワクチン接種もある程度軌道に乗りつつありますが、薬剤師会や病院薬剤師会の皆様には、それぞれの地域や場所で、接種事業が的確かつ効率的に行われるようご対応頂いておりますことに感謝申し上げます。

さて、今回は掲載させていただいている「オレンジ日記」を振り返ってみることにしました。最初の掲載は令和元年11月号で「スポーツファーマシストの活用」、続いて「循環器病対策基本法」、「緊急事態宣言の期間延長」、「新型コロナウイルス感染症とこれからのこと」、「閉会中審査」、「女性の健康と活躍推進」、「自殺対策強化月間」、「5月5日は薬の日」と連載してきました。POWERを手にして下さる皆様と機関紙を通してつながっていることに感謝すると同時に、こうして原稿を掲載していただいていることに感謝でいっぱい気持ちになりました。その時々一番伝えたい想いをタイトルに込めて書いていますので、タイトルを見ると、その際の活動を振り返ることができます。

私がこうして積み重ねをさせて頂いたように、次の組織候補となられた神谷まさゆき副会長は、まさに今、後援会活動を積み上げられ、その活動報告が毎回のPOWERに掲載されています。

私もまだまだ及ばないところがたくさんありますので、先輩の藤井基之先生に習いながらの毎日です。

今後とも引き続きご指導をよろしくお願いいたします。

- 広報委員
鳥海 良寛、石井 甲一
大澤 泰輔、丹羽 松弘
橋本 昌子、加茂 雅行
和泉啓司郎、渡邊美知子



(K-I)

散歩コースの一つに自宅近くの古墳を囲む公園がありました。春は桜の花見で盛り上がりますが昨年はずりでした。4月末のある日、夫婦で歩いていたら、古墳の上の木々の間に陽光を受けて黄色く光る小さな花弁が目映りました。郊外の林の中に咲く春先の可憐な花といえば「カタクリ」が有名ですが、山の花好きの間で見得るといわれているのが「金蘭・銀蘭」なのです。都会の公園で見られるとは全く想像もしていなかった花に会えることができたのです。コロナ禍で得たなと夫婦で喜び、今年も会いに行ってきました。

コロナ禍で後援会活動が制限されていますが、様々な工夫をして来年の夏を迎えたいと思います。

神谷まさゆき 物語

～第7回(最終回)～



「フォレスト・ガンパ 一期一会という映画をご存知でしょうか。この映画には次のようなセリフが出てきます。「ぼくらにはみんな運命があるのか、ただ風に吹かれて漂っているだけなのか。ぼくはその

両方だと思う。多分その両方が同時に起きるんだと思う。」
私は組織内統一候補に選任をいただくまでの道程を振り返ると、いつもこの言葉を思い出します。ここに至るまでに、学んで、触れて、醸成してきた、政治の面から薬業界の未来を輝かせたいという想いがあり、それを応援してくれる家族があり、また代々受け継いできたものを引き受けてくれる大学の後輩があり、色々な場面で関わった皆様がエールを送ってくれたことから、次の一步を踏み出すことを決めました。

その時の決意は、2020年4月POWER号外に掲載されていますが、薬局の息子として幼い頃から触れてきた「薬剤師が薬局や医療機関でその職能を十分に発揮することは地域住民の健康増進や公衆衛生の更なる向上、社会保障制度の維持にも貢献できる」という想いや、製薬



令和元年度日本薬剤師連盟定時評議員会にて組織内統一候補に決定いただきました

会社勤務を経験して実感した優れた医薬品・医療機器が開発されて安定して流通することは国民の希望になり日本の産業としても重要であることなど、それら政治信条をお一人おひとりへしっかりと伝えてまいりたいと思います。

そのための方法も、時代や社会の流れを上手に乗りこなしていく必要もあるかもしれない。ちょうど組織内統一候補に選任をいただく前後から、新型コロナウイルス感染症拡大により様々な価値観が一変しました。私たち薬剤師はその中でも医薬品提供体制を崩すことなく、公衆衛生



リモート形式でのやり取りもフル活用しています

られる視線も変わってきているように感じます。そのように様々なことが変わり、新しい生活様式も求められる中、全国の皆様にご挨拶する機会を得られるようにWEB画面を通じたリモート形式もフル活用して取り組んでいます。

また、それと同時に長く継続されていることには、やはり意味と価値があることも強く実感しています。実際にお会いして対面することで得られる伝えられるものも、大切にしていきたいと思っています。



カメラタッチでご挨拶させていただいています

替わるニューノーマルな方法の「カメラタッチ」で迎えたいだけ嬉しく思います。その時にお聞かせいただいた現場の声を、しっかりと国政に届けられるようにこれからも努力してまいります。そして、その共有した時間が「神谷まさゆき物語」の新たな1ページに書き加えられることを、心から楽しみにしています。全7回も連載をお読みいただきありがとうございます。誌面を通しての皆様とのご縁に、心から感謝申し上げます。

だからこれを読んで下さっている皆さんの街に全国キャラバンでお邪魔した際は、どうか握手に

編集後記

コロナ禍で得たこと

新型コロナウイルス感染症の収束が未だ見えない中で、切り札となるワクチン接種事業がやっと軌道に乗ったと実感しています。医療の現場に従事しておられる薬剤師の多くの方々がすでにワクチンの接種を受けられたと思います。

昨年4月に最初の緊急事態宣言が発令されてから、1年3か月が経過しています。その当時、感染状態がこのように長引くとは誰も予想しておらず、私もしばらくの辛抱だと思いつつ、外出自粛を実践し、時々気分転換のため自宅近くを散歩することにしていました。

散歩コースの一つに自宅近くの古墳を囲む公園がありました。春は桜の花見で盛り上がりますが昨年はずりでした。4月末のある日、夫婦で歩いていたら、古墳の上の木々の間に陽光を受けて黄色く光る小さな花弁が目映りました。郊外の林の中に咲く春先の可憐な花といえは「カタクリ」が有名ですが、山の花好きの間で見得るといわれているのが「金蘭・銀蘭」なのです。都会の公園で見られるとは全く想像もしていなかった花に会えることができたのです。コロナ禍で得たなと夫婦で喜び、今年も会いに行ってきました。

コロナ禍で後援会活動が制限されていますが、様々な工夫をして来年の夏を迎えたいと思います。